

日本最大のコンピュータエンターテインメント開発者向けカンファレンス

CEDEC 2018 基調講演が決定

任天堂株式会社 代表取締役 フェロー 宮本 茂氏

「日本のインターネットの父」慶應義塾大学環境情報学部教授 村井 純氏

ゲーム開発者の生活と仕事に関するアンケート調査を実施

受講申し込みは7月9日(月)から開始※



テーマ: Fantasy becomes Reality

会期: 2018年8月22日(水)～8月24日(金)

会場: パシフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい)

一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会(略称:CESA、会長:早川英樹、所在地:東京都新宿区西新宿)では、本年8月22日(水)から8月24日(金)までの3日間、パシフィコ横浜会議センター(神奈川県横浜市)で開催する日本最大のコンピュータエンターテインメント開発者向けカンファレンス「CEDEC 2018」(CEDEC=セデック:Computer Entertainment Developers Conference)の基調講演の講演者および講演テーマを決定しました。

会期初日の8月22日(水)の基調講演は、「どこから作ればいいんだろう?から10年」(仮)のタイトルで任天堂株式会社代表取締役 フェロー宮本 茂氏が登壇します。宮本氏は、CEDEC 2008以来、2度目の基調講演となります。2008年は、「どこから作ればいいんだろう?」のテーマで“『Wii Music』の開発を中心に、ゲームのプロデュースやユニバーサルデザインの考え方、また日々のものづくりの小さなこだわりは何か?”を講演されました。10年の歳月を経た本年は、2008年の基調講演内容を振り返りながらゲーム制作の現状について語ります。

会期最終日の8月24日(金)には、慶應義塾大学環境情報学部教授大学院政策・メディア研究科委員長村井 純氏が登壇します。全人口の半分を超える数の人がインターネットに参加しているという現在、「日本のインターネットの父」として知られる村井氏独自の視点で「インターネット文明における空想と現実」について紹介していきます。

■『ゲーム開発者の生活と仕事に関するアンケート調査』を実施

CEDEC運営委員会では、『ゲーム開発者の生活と仕事に関するアンケート調査』を実施します。この調査は、専修大学ネットワーク情報学部の藤原正仁准教授とともに実施するもので、対象は、商業ゲーム開発に携わる開発者の方で7月31日(火)までの間、CEDEC公式Webサイトにて実施します。(詳細ページ <http://2018.cedec.cesa.or.jp/outline/enquete>)

6回目となる本年の調査は、これまで通りゲーム開発者の働く環境やキャリアに関する意識・行動の現況を把握することに加えて、「働き方」に関してもう一步踏み込んだ調査を意図して、仕事量、職場での人間関係、仕事の質と就業時間、勤務形態の4項目の設問を追加しました。

調査にご協力いただいた方の中から抽選でCEDEC 2018レギュラーパスなどを進呈します。アンケートの集計・分析結果は、CEDEC 2018開催前に主要な数値などを速報としてお知らせいたします。さらに、CEDEC 2018 終了後には、アンケート結果の詳細な分析を公表します。



■受講申し込みは7月9日(月)から開始※

7月1日(日)の開始を予定しておりましたが、CEDEC 2018の受講申し込みは、登録システム開発上の不具合の対応により、7月9日(月)に延期とさせていただきます。ご迷惑をおかけしまして申し訳ございません。

【CEDEC 2018 基調講演】

■8月22日(水) 9:45~11:05

<タイトル> 「どこから作ればいいんだろう?から10年」(仮)

<概要> 10年前(2008年)の CEDEC 基調講演内容を振り返りながらゲーム制作の現状について話します。

<講演者> 宮本 茂 任天堂株式会社 代表取締役 フェロー

[プロフィール] 1952年京都府生まれ。

1977年金沢美術工芸大学工業デザイン専攻卒業、任天堂株式会社入社。1981年デザイン及び監督した業務用ゲーム機『ドンキーコング』が日米で大ヒット。その主役として生まれた「マリオ」は今や任天堂の顔となっている。

その後もファミリーコンピュータ、ゲームボーイ、ニンテンドーDS、Wiiなどでの『ゼルダの伝説』シリーズを始め名作ソフトを多数手がけ、世界のゲーム業界を牽引。

1998年にはアメリカのゲーム業界人で作るインタラクティブ芸術科学アカデミーの「ゲーム殿堂」入り第1号に選ばれ、フランスのレジオン・ドヌール勲章、イギリスのBAFTA「Academy Fellowship」、スペインのアストurias皇太子賞など世界で高く評価を受けている。



■8月24日(金) 9:45~11:05

<タイトル> インターネット文明における空想と現実

<概要> 技術や機械の発達とそれに伴う社会制度の整備などにより、人知が進み、精神的や物質的に生活が豊かになった状態を文明と呼ぶとしたら、私達は「インターネット文明」を確立したことになる。

2017年に全人口の半分を超える数の人がインターネットに参加したことにより、残りの人類の参加は時間の問題となった。インターネット専用の低軌道衛星の計画が進み、地球のどこにいてもインターネットに参加できるようになる。

インターネットで流通するデジタルデータは性能的な制限を意識させずに処理される。ネットワークでつながった計算資源はときにとつともない力で人類をサポートする。

<講演者> 村井 純 慶應義塾大学環境情報学部教授 大学院政策・メディア研究科委員長

[プロフィール] 工学博士(慶應義塾大学・1987年取得)

1984年日本初のネットワーク間接続「JUNET」を設立。1988年インターネット研究コンソーシアム WIDE プロジェクトを発足させ、インターネット網の整備、普及に尽力。初期インターネットを、日本語をはじめとする多言語対応へと導く。内閣高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT 総合戦略本部)有識者本部員、内閣サイバーセキュリティセンターサイバーセキュリティ戦略本部本部員、IoT 推進コンソーシアム会長他、各省庁委員会の主査や委員などを多数務め、国際学会等でも活動。2013年「インターネットの殿堂(パイオニア部門)」入りを果たす。「日本のインターネットの父」として知られる。著書に「インターネット」(岩波新書)著、「角川インターネット講座」第1巻「インターネットの基礎 情報革命を支えるインフラストラクチャー」(角川学芸出版)他多数。



※講演者は敬称略

※講演タイトル、概要等は変更になる場合がございます。最新情報はCEDEC公式ウェブサイトでご確認ください。

「CEDEC」公式ウェブサイト <http://cedec.cesa.or.jp/>

●本件に関する報道関係からのお問い合わせ先

CEDEC 広報担当(Publicity Bureau 内)

TEL.050-3419-7725 FAX.050-3730-3968 e-mail press@cedec.jp

●本件に関する一般の方からのお問い合わせ先

CEDEC 事務局 e-mail info@cedec.io